

## <栃木地域>

### ■このしろ伝説

むかし、<sup>ありまのみこ</sup>有馬皇子が下野国へさすらって来て、この地方の五万長者と呼ばれる長者のもとへ<sup>ほうこうにん</sup>奉公人として仕えた。

長者にはひとりの娘がおり、いつの間にか、<sup>みこ</sup>皇子とこの娘は恋仲となった。しかし、<sup>ひたちこくし</sup>常陸の国司からこの娘を嫁に欲しいとしきりに<sup>さいそく</sup>催促されるので、「娘は死んでしまいました。」と返事をし、<sup>ぎそう そうしき</sup>偽装の葬式を行った。

本当の<sup>そうしき</sup>葬式に見せかけるため、「このしろ」（つなし）という魚を焼くと人を焼いたようなにおいがするので、<sup>ひつぎ</sup>棺のなかに「このしろ」と二つを入れて、<sup>のべ</sup>野辺送りをしたという。